長尾彌四郎(房景)殿
御宿所

永正十六年　己卯　紀元二一七九

二月十八日。足利義稙、能登守護畠山義總に、その年始の禮物を贈れるを謝す。

一一九七

【室町家御内書案】

爲年始之禮太刀一腰到來、悅喜候也。

永正十六二月十八日　貞陸(伊勢)御調進

畠山左衞門佐(義總)どのへ

三月三日。幕府、加賀萬福寺が禁裏日月蝕料所石川郡米光村の年貢を無沙汰するを以て之を直務とす。

一一九八

【守光公記】

加州米光内日月蝕御料所事、近年萬福寺公用一向無沙汰之間、先度雖被成御下知、猶以同篇之條、爲御直務被差下上使上者、如先々嚴密年貢以下可致其沙汰之旨、可相觸彼百姓等之由、所被仰出之狀如件。

永正十六
三月三日　飯尾(貞運)　齋藤(基雄)

石川郡御中

(天文日記八年十一月十一日の條に、東福寺末寺加州萬福寺領石川郡米光事云々と見ゆ。)

十月十九日。河内畠山義英の子勝王、越後長尾房景等に、能登口不慮の事に依りその退却したるを勞し、來春の再擧を囑す。

一一九九

【上杉家文書】

今度於越中國長々張陣、令祝着候。然處不慮題目出來、無念至極候。乍去各無事退去、快悅不少候。此儘可捨置事、外聞口惜候。爲景以入魂之趣、來春再興之義可爲本望候。恐々謹言。

永正十六十月十六日　勝王(畠山)　在判

長尾彌四郎(房景)殿

(大永十五年七月十日の條參照。長尾備中守宛所のものも亦同文なり。)

○

二〇〇

【上杉家文書】

今度之義言語道斷次第、無念至極候。仍春以來長々御張陣、殊種々御入魂難謝之由候。依之只今勝王以書札被申候。就中再興之義、色々調法半候。猶向後之事被憑入候外無他候。恐々謹言。

永正十六十月十九日　能登守　元近　在判

長尾彌四郎(房景)殿

進之候

○

二〇一

【上杉家文書】

去年之働、度々兩人雖令注進候、十月六日之書狀具加披見候。堺(境)川一戰之次第、誠希代之名譽不可有比類候。於眞見(越中)・富山張陣、被勵軍功樣體、柴山藤兵衞尉委細申候。既二上之麓迄放火、彼城及落居計之刻、能登口不慮出來、無念此事候。兩口如此云成立云向寒氣、當年歸陣無餘儀候。行事當年へ被相延候。武略注進之趣可然候。其國之衆、爲景家風各戰忠、尤感悅至極候。就其以狀申下候。賴入之由被加諷諫候者簡要候。此刻之出陣可屬本意之段必然候。惣國彌馳走可爲祝着候。神保出雲守(慶宗)・遊佐新右衞門尉(慶親)可令調談候。猶榎並三郎左衞門可申候。恐々謹言。

永正十七正月廿七日　長尾彈正左衞門尉(爲景)殿　卜山(畠山尙順)　在判

(畠山尙順は守護代神保慶宗と惡しく、長尾爲景に欵を通ぜしなり。)

永正十七年　庚辰　紀元二一八〇

三月。能登守護畠山義總の被官遊佐秀盛、鹿島郡永光寺に制札を與ふ。